



辺留(べる)※方言名：ブル

夏場に海から昇る朝日、旧暦15日の満月・星空が感動するほど美しいと言われる辺留集落。旧暦の1日、15日に干潮になると、入口側からサンゴ礁が広がり、夏場は昼、冬場は夜に漁をすることができます。

1 辺留海岸(コボレ岩)



辺留海岸は昔マーシィウ(馬競争)、舟競争も行われていた。リーフにはコボレ岩があり、ツウズンゴモリは深く、子供たちの海遊び場だが南側の海岸には畏られる場所もある。旧暦1月15日は香たてや家の周りに撒くシュツケスナ(波打ち際の砂)で清め、ハブ除けや家内安全を祈る。

3 ウツタンチヂ



集落の南西側の小高い森になっている場所がウツタンチヂである。ここに登ると集落が一望でき、頂上には祠がある。周囲は有段をなし、明らかに添え郭的な機能を有する見張り台と思われる。集落行事の校区相撲、敬老相撲、そして雨乞いの祈りなどもここでやる。

5 アムィゴ



ブルの南側、須野崎台地は舌状に突き出ており、須野との境である。先端はブル、スノの人々が畏れる場所である。水神様のあるアムィゴは西側斜面の下にあり、カミサマが禊をする聖なる場所である。現在はカミサマになる人も少なくなり、藪に覆われている。

7 サンゴの石垣



ブルのシマは、人々が移住してきた地区と古い要素が残っている地区がある。南側は戸数こそ少ないが、カミミチ、アムィゴ、ケンムンなど聖域的な場所やサンゴの石垣を有し、小道の残るシマである。民家の一部にはサンゴ石垣があり、ミンコ(イタビ)に覆われ、懐かしい風景が残る。



2 トイミゴラ

ブルは3つの川が流れ、水に恵まれている。集落北側を流れるトイミゴラ、畑地に整備されたブルゴラ、南側を流れるメイキョゴラがある。いずれも生活用水であり、トイミゴラではクビキリヤウファ(首のない豚)が出没すると言われる畏られている。ブルゴラ上流にはドンドンゴラの滝がある。



4 イナバカ

辺留(ブル)集落の共同墓地・フーバカでなく一族と近隣のみがひっそりと埋葬されている墓がある。そのことをブルでは昔からイナバカと呼んでいる。美しい砂浜海岸にほど近く廻りは、モクマオの木々に囲まれ古き時代を偲ばせる。また、ブル最古の墓石と思われる一部が今も残っている。



6 カミミチ

須野崎の台地・アムィゴより東側には台地の上に登る細い道がある。小道はガジュマルとソテツに挟まれ鬱蒼としている。登り口部分は民家の脇を通り、今でも白い浜砂で清められ、シマの人が聖域とする「神道」がここに残る。この道はシマンチュウが大切に敬う場所であるため、中に入らずに入口で見て欲しい。



8 ハーミシャ岩

辺留(ブル)は北からブルグスク、ヒャンゴ、カネンゴ、マッコ、ニャートに区分され、ブル集落は昔はブルグスクにあったが、大火で笠利とブルに移動。ハーミシャ岩はブルの南側にある須野崎先端部をなす海岸にある。ここには伝説の大男・須野ホジョロムイの足跡岩があり、またケンムンが出没すると畏られる場所である。